



※保存修理工事前の写真のため、実際の見え方と異なる場合があります。



地元住民のワークショップでの提案により、道後温泉サブセンターゾーンを中心となる道後温泉本館周辺は生まれ変わりました。本館周辺の道路をつけ替え、車道と歩道を分離。本館出入口前は石畳の空間となり、風情を楽しみ写真撮影にも最適です。本館南側の「道後温泉 空の散歩道」では、足湯で寛ぎながら本館の様子を一望することができます。

道後温泉本館周辺

ゆったりゆつくりまち歩きが楽しめます

進化するまちづくり

回遊性の高い物語のあるまちを目指して、整備を進めてきました

センターゾーンの入り口に位置し、ロープウェイ駅舎や道後温泉サブセンターゾーンへの回廊ともなるロープウェイ街は、平成18年にリニューアル。商店街の人たちが主体となり、通りに面した建物のファサード（建物正面）の整備や電線類の地中化、道路景観整備などを行い、統一感ある新しい街並みとして生まれ変わりました。

ロープウェイ街

和・なごみをテーマに個性的な魅力ある街並みを創造

案内サイン



案内板と連携して、市民や観光客を目的地に誘導していくために、方向表示と目的地までの距離を記したサインを設置しています。

案内板



市民や観光客の行動起点となるJR松山駅・松山市駅・道後温泉などに、広域情報がわかる総合案内サインを配置。また、市内の主動線とそこから分岐した大きな通りには、概ね500m間隔で地区情報サインを配置し、回遊できるようにしています。

解説板



小説ゆかりの施設や跡地に解説板を設置しています。当時の写真や新聞の挿絵、小説の引用文、解説などを記載して、ゆかりの地をわかりやすく紹介しています。このパンフレット内の▲マークのある所に解説板があります。

まち歩きサイン

『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり

小説を活かした松山ならではのまちづくり

小説に描き込まれたメッセージを基本理念に、市内各地に点在している小説ゆかりの史跡や、地域固有の文化資源を発掘・再評価し、結びつけて、まち全体を屋根のない博物館＝フィールドミュージアムに見立てたまちづくりを行っています。

屋根のない博物館

フィールドミュージアム構想

松山市内には、小説『坂の上の雲』ゆかりの史跡や地域固有の貴重な資源が数多くあります。これらの地域資源をひとつの作品にたとえ、市内全体を「屋根のない博物館」と捉え、回遊性の高い物語のあるまちを目指すのが、フィールドミュージアム構想です。

具体的には、松山城周辺をセンターゾーン、そのまわりに6つのサブセンターゾーンを配し、それぞれのゾーンの魅力を地域住民が主体となって磨き上げる“松山らしさ”を活かしたまちづくりを進めています。

『坂の上の雲』のまちづくり

小説『坂の上の雲』の3人の主人公が抱いた高い志とひたむきな努力、夢や希望をまちづくりに取り入れたのが、『坂の上の雲』のまちづくりです。

単に新しいものを作るだけではなく、地域で古くから培ってきた、既存の地域資源を最大限活用し、主人公たちのように夢や希望を持ちながら、官民一体となって「物語」が感じられるまちを目指す、それが全国ではじめて取り組む「小説を活かしたまちづくり」です。

『坂の上の雲』フィールドミュージアム（イメージ図）

